



静岡県立美術館にて



作品「愛しいフクロウ」

平成9年度から、高齢者の芸術活動の促進と創作活動を通じた生きがいづくり等を目的として「すこやか長寿祭美術展」が静岡県立美術館県民ギャラリーで開催されています。

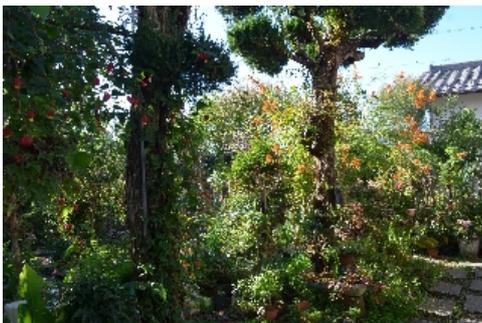
展示会場には、毎年県内各地のアマチュアから6部門（日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真）約270点が展示されます。

令和元年度第23回静岡県すこやか長寿祭美術展（令和2年1月24日～2月2日）の会場の一角に、先に和歌山県で開催（令和元年11月9日～12日）された、第32回全国健康福祉祭和歌山大会（ねんりんピック紀の国わかやま2019）に、工芸の部で出品され、和歌山県知事賞をみごと受賞された静岡市駿河区にお住いの勝又トミ子さん（80歳）の受賞作品が、すこやか長寿祭美術展会場入口のすぐ右側に展示されていました。作者本人からお聞きした話では、構想を練り和紙100%をちぎり20年間積み重ねてきた経験を活かして絵を表現し、観てくださる皆様に感動して頂けるように、時を忘れ・我を忘れ、紙を重ねること6か月もの長い制作期間を経て、納得のいく作品を完成することが出来ました。その結果がこの大賞に結び付いたものと思われま。

写真左→ 受賞作品を説明して下さる勝又トミ子さん

写真右→ 受賞作品「愛しきフクロウ」

※鑑賞後、取材させていただく予定でしたが、この後すぐにコロナ感染症が国内に広がり、取材は当初の予定より10か月後に実施させていただいております。



自宅庭園



自宅アトリエ

再度取材をお願いし、令和2年11月23日に駿河区のご自宅に伺わせていただいたところ、自宅前に広がる庭には多種多様の果実・草花等が手入れされていて、毎日の水やりに30分もついやしているそうです。

庭を前にした部屋をアトリエとして使用しており、現在取り組んでいる作品は、令和2年度第24回静岡県すこやか長寿祭美術展に出品する作品を手掛けています。

勝又トミさんは、80歳とはとても思えぬ行動派で月50時間のヘルパーの仕事をこなし、編物・合唱・朝のでんでん体操にも取り込まれ、残りの時間を趣味のちぎり絵作成に当てているスーパーウーマンです。



[作品「萌ゆる富士」](#)



[「駿府の春」](#)

勝又さんが、長年手がけ創り上げてきた「ちぎり絵」の大作が部屋のあちらこちらに掲げてあり、訪問した私達を、ちぎり絵の世界に案内してくださいました。

作品「萌ゆる富士」は、日本平に萌え出る櫻花の後方に駿河湾を配し、そこから聳え立つ富士山は、真っ白に綿帽子をかぶり、冬から春への移ろいを醸し出してくれ、ちぎり絵ならではの温かみを感じます。

作品「駿府の春」は、徳川家康公が御台所や家臣を連れて花見をしたと言う故事に倣い、絢爛豪華な花見行列の様子が江戸時代にタイムスリップしたかの如く細かなところまでよく描かれています。

ちぎり絵教室



[ちぎり絵同好会のみなさん](#)



[ちぎり絵教室](#)

小鹿老人福祉センター「来・て・こ」教室で学ぶ、ちぎり絵同好会の皆さん(写真左)は、月2回勝又トミ子先生指導の下、四季折々の景色や草・花を題材にして創作活動に取り組んでいます。

コロナウイルス禍で心も体も不調をきたす人が多い中、ここにお集りの皆さんは、マスク・換気・消毒・間隔をしっかりと保ち、仲間との強い繋がりの中で元気よくはつらつとした創作活動に取り組んでいます。



[亀山ヒサエさん\(92歳\)](#)



[関 輝男さん](#)

写真左の女性は何歳に見えますか？と、皆さんに問いかけようとしたのですが、写真キャプションに「亀山ヒサエさん92歳」と表示したため年齢はすぐにわかったと思いますが、とても92歳とは思えぬ所作で、当教室に出席するさい写真に写っている重い額縁ちぎり絵を手にとり下げて、元気よく参加してくれました。

亀山ヒサエさんは、当同好会の最年長で、ちぎり絵歴30年の大ベテランであり、指導的立場として活躍できる素晴らしい腕前の持ち主でもあります。

写真右は、同好会唯一の男性関輝男さんです。みなさんと和気あいあいと創作に取り組み、今日は竹を題材に創作しています。

ちぎり絵同好会皆さんの作品



[露崎智代さん](#)



[岩田ときさん](#)



[宮川さん](#)



[井上美智代さん](#)



[小倉さん](#)



[中島さん](#)



[海野八重子さん](#)



[佐藤由美子さん](#)

コロナ禍の中、感染者の数が日増しに増加し、私たちの心も体も元気を失い、行動範囲も制限される状況下で小鹿老人福祉センター「来・て・こ」のちぎり絵同好会の皆さんを見ていると、「感染しない・感染させない」を各人がしっかりと守り仲間を思いやる心を大切にしながら趣味の「ちぎり絵」を楽しんでいる姿こそが、コロナ社会を上手に生き抜いている妙薬ではないでしょうか。

取材：富士・富士宮・北駿地区担当 生きがい特派員 渡邊英機